

令和3年12月号



春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



～目次～

- 病院短信
 - 日常の一コマ
 - いきいき看護・介護
 - 作業療法科だより
 - おやつバイキング
 - スタッフ紹介
- 佐々木 強
 - 村山 尚美
 - 笹瀬 英子
 - 小島 大輔
 - 病棟デイルーム
 - 鈴木 好子

12月の予定

- ◇誕生日会
 - 1病棟 12月 6日(月)
 - 2病棟 12月 7日(火)
 - 3病棟 12月17日(金)
 各病棟デイルーム 14:00～
- ◇キャンドルサービス
 - 全病棟 12月24日(金)

おやつ
バイキング

手作りおやつで
優雅なひと時



どれも美味しそうな
スイーツがズラリ!



はい!

あっ、店員さん
大きいの取ってね!

そしてスイーツに群がる乙女たち
合計 278歳



ほお～

あちらが当店
おススメです



選ぶ楽しみ食べる楽しみ…
至福のひとときでした(^o^)



男だって旨いんだな、これが!



♪美味しく過ぎて
こまっちゃう♪

スタッフ紹介



2病棟 看護師
すずき よしこ
鈴木 好子
星座 牡羊座
血液型 A型
趣味 自然散策

周りのスタッフの皆さんに支えていただき、入職して8ヶ月になります。忙しい毎日ですが、これからも明るく元気に笑顔を忘れず、患者さん中心の看護を提供できるよう頑張っていきたいと思っております。よろしくお祈りいたします。



『新型コロナウイルス感染症雑感(その2)』

新規感染者数が最も多い北海道でも1週間合計で10万人当たり約2人と低い値を維持し、全国で見ても重症患者数は安定的に多くない状態が続く、ようやく東京都も医療の逼迫段階を一番低いレベルに変更しました。コロナに関連した規制が緩和され、経済活動も元へ戻ろうとしている印象があり、商店街の客足は明らかに増え(まだ元通りといえませんが)、人々の表情にも安堵の色が伺えるように感じます。

しかし目を転じると、ヨーロッパや米国では患者数が増加し、アジアでも、新型コロナウイルス接種が進み規制を緩和したところ、感染者数の増加にあつてはいる国があり、日本の現在の落ち着いている状況の要因は何なのかと関心が持たれているようです。

日本の専門家と呼ばれる方々が、現在の日本の良好な状況の理由を色々語っていますが、私が読んでいて決定的に『これだ』と感じるものには未だ出会っていません。ですが、納得がいく部分はこの二つです。

①日本では新型コロナウイルス接種は効果の高い mRNA ワクチンのファイザー製とモデルナ製が殆どで、しかも国民の接種率が高い。開始が欧米より遅いと当初はかなり政府が批判されましたが、現在は主要欧米国より高い接種率となり、まもなく2回接種率が80%に届こうとしています。

②日本は感染者数の安定した減少をみてから、石橋を叩いて渡るように徐々に規制を緩めてきました。しかし、他国ではワクチン接種の進行に伴い規制の解除をやや急いだ印象のある国や、効果が少し弱いアストラゼネカ製を多く使

用した国では、未接種者やブレイクスルー感染の拡大に見舞われ、再度の規制強化やロックダウンの検討に入っているようです。

次に、これから冬季に第6波は来るのでしょうか。私は波それ自体は来ると思いますが。ただし、第5波と同等或いはそれ以上の規模となる可能性はかなり低いと思います。これも、基本的感染予防対策である「必要な場所場面での適切なマスク着用、3密を避け、換気、手指消毒の励行」が前提です。これらはインフルエンザ等の呼吸器感染症の予防にもなり、ノロウイルス予防にも限定的ながら効果があると思います。また、ワクチンのブースター接種(3回目)も可能な限り円滑な実施が望まれます。

最後に明るいニュースです。コロナウイルス感染症の内服治療薬の登場です。英国でメルク社のモルヌピラビル、商品名「ラゲブリオ」の使用が承認されました。欧州連合(EU)でも緊急使用を促しています。軽中等症で重症化リスクのある患者で発症5日以内に内服開始したところ入院が50%に減少しました。また、ファイザー社の「パクスロビド」は重症化リスクの高い患者に発症3日以内に内服開始したところ重症化を89%減少させた。11月5日に発表されました。製造供給能力や価格がどうなるか、また副作用の詳細はどうか気になる場所です。

これらが日本の普通の医療機関で処方できるようなになれば、インフルエンザ対応と似たような感覚になる可能性があります。



1病棟 介護福祉士

笹瀬 英子

先日、おやつバイキングが行われ、和洋のお菓子が何種類もテーブルに並びました。

患者さんのリクエストを聞いてお菓子を運ぶと、嬉しそうに召し上がり、たくさんのお菓子はあつという間に完食!また、患者さんの介助をしていると「本当に美味しい、美味しい」といつも以上の笑顔が見られ、私たちの心も和みました。

男性女性に限らず、皆さんいくつになっても甘いものが大好きなんだなあ、と改めて実感しました。ちなみに、一番人気はアイスクリームとプチケーキでした!

これからも患者さんの笑顔を引き出せる介護をしていきたいと思えます。



日常の一コマ

今回は3病棟にご入院中の千代子さん(95歳)の一コマです。千代子さんは熊本のご出身で、女学校を卒業後に会社勤めをした後、23歳の時に結婚、二人のお子さんに恵まれたそうです。

その後、ご主人の仕事の関係で一家で上京、昭和の55年頃にはご主人と二人で逗子市に移り、カラオケや、ご主人をパートナーにしての社交ダンスを楽しみ、友人も多かったそうです。特にカラオケの18番は「美空ひばり」や「水前寺清子」でとてもお上手だったとか。

ご主人との仲もとても良く、今でも「主人が一番!」と千代子さん。そして「主人はね、とても優しいのよ。一度もケンカしたことがないの。息子もね、優しいの。」といつも笑顔で話されます。

そんな千代子さんがある日、私の夜勤の時に「お願いします」とナースセンターに訴えがあったので急いで病室に行ってみると「呼んでいません!」と目も開けてくれません。実はそんなことが2、3回続いたので他の夜勤のスタッフにそのことを伝えると、笑いながら『この「お願いします」は千代子さんの一つの口癖みたいなものなので悪気はないのよ』という事でした。

私はこの病棟に移動してきてまだ間がないので、いまだに患者さん全員のADL(移動や食事、排泄や入浴等の患者さんの日常行動の状態)を把握しきれていません。ですからこの「お願いします」で真っ先に頭をよぎ

ったのが歩行しようとしての「転倒」やベッドからの「転落」でした。千代子さんに何事もなくホッとしましたが、患者さんの『助けてサイン』はそれぞれみな違います。早くそのサインを覚えないと駄目ですね。普段の千代子さんは車椅子で自室とデイルームを自由に行き来し、時には「看護婦さん、この人お茶をこぼしたよ!」って笑顔で知らせてくれたりします。そんな千代子さんとこれからもたくさんの笑顔で、元気な日常を一緒に過ごしていきたいと思っています。

3病棟 介護福祉士 村山 尚美



作業療法士 小島 大輔

作業療法科 だより

師走を迎え、今年も一年過ぎるのが早かったなあ~としみじみ感じる時期になってきました。寒さも本格的になってきましたが、今日は皆さんの胃袋もあつたまる「お芋」の話をしたと思います。

作業療法室では季節ごとに畑で色々な野菜を植えています。毎年の定番となっているのがサツマイモです。5月に苗を植え付けて、10月の終わりに患者さんと収穫しました。中々の大きさの芋に「でっかいね!!鳥みたいな形してる」「かぼちゃみたい」とメンバーも興奮していました。

さて、収穫よりも楽しみなのが試食会。今年は大学芋とスイートポテトを作りました。始まるとすぐ慣れた手つきで芋を切っていく様は『さすが主婦だなあ』と普段とは違う一面に感心します。力仕事は男性の出番!「肩が痛いよ…」と言っていた女性患者さんに「俺に任せてよ」と優しく声をかけて芋を潰してくれました。スイートポテトは各々に形を作ってもらいましたが、「ここに線を入れて梅の花みたいにするの」と個性豊かなスイートポテトが完成しました。どちらの料理も甲乙つけがたい味で、お腹一杯になるまで食べていただきました。現在、畑では大根が伸びてきています。さあ、次の試食会は何を作ろう?みんなでわいわい作って食べている時の顔を想像すると楽しみで今からにやけてしまいます。

